

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ウ	国際交流拠点の形成に向けた基盤の整備		
施策	①国際交流拠点形成に向けた受入機能の強化			
(施策の小項目)	○交流拠点施設等の整備			
主な取組	Jリーグ規格スタジアム整備事業	実施計画 記載頁	363	
対応する 主な課題	○国内外の各地域において、MICE誘致競争は年々拡大している中、既存施設では収容が不可能な1万人規模の会議開催案件も発生しており、国際的な交流拠点施設の整備が必要である。加えて、案内板の多言語表示化をはじめとした外国人の受入環境整備にも取り組む必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	Jリーグ規格のサッカースタジアムを整備し、沖縄県のスポーツ及び観光振興に寄与する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	基本構想	基本計画	実施計画	基本設計	実施設計	平成32年 供用予定	県 市町村
担当部課	文化観光スポーツ部 スポーツ振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
—	—	—	那覇市においても県と同様の整備構想が進められていることから、両者で連携して効果的な整備が行えるよう、実施主体や支援のあり方等について意見交換を行った。	—
活動指標名			計画値	実績値
—			—	—
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果			
大幅遅れ	那覇市においても県と同様の整備構想が進められていることから、両者で連携して効果的な整備が行えるよう調整を行っている。平成27年度は、実施主体や支援のあり方等について那覇市と連携して検討を進めた。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
—	—	那覇市においても県と同様の整備構想が進められていることから、両者で連携して効果的な整備が行えるよう調整を行っているところである。引き続き、那覇市と連携・調整し、より効果的な整備方法や支援のあり方等について検討を行う。	—

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度の取組改善案	反映状況
・那覇市の考える具体的整備計画等について調整し、沖縄県のスポーツ及び観光振興に寄与する施設をいかに整備していくか検討する。	①Jリーグ規格スタジアムについて、那覇市との意見交換を定期的実施した。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

状況説明	那覇市においても県と同様の整備構想が進められていることから、その効果的な整備方法等について、両者で調整を行っている状況にある。
------	---

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p><u>○内部要因</u></p> <p>・那覇市においても県と同様の整備構想が進められていることから、県と那覇市の役割や効果的な整備方法等について調整を行う必要がある。</p> <p><u>○外部環境の変化</u></p>
--

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・那覇市においても県と同様の整備構想が進められていることから、県と那覇市の役割や効果的な整備方法等について検討する。
--

4 取組の改善案(Action)

・那覇市においても県と同様の整備構想が進められていることから、県と那覇市の役割や効果的な整備方法等について引き続き検討を行う。

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ウ	国際交流拠点の形成に向けた基盤の整備		
施策	①国際交流拠点形成に向けた受入機能の強化			
(施策の小項目)	○交流拠点施設等の整備			
主な取組	「沖縄空手会館」の整備	実施計画 記載頁	363	
対応する 主な課題	○国内外の各地域において、MICE誘致競争が年々拡大している中、既存施設では収容が不可能な1万人規模の会議開催案件も発生しており、国際的な交流拠点施設の整備が必要である。加えて、案内板の多言語表示化をはじめとした外国人の受入環境整備にも取り組む必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	沖縄伝統空手を独自の文化遺産として保存・継承・発展させるとともに、国際大会等の開催や空手研修生の受入体制の強化を図り、「空手発祥の地・沖縄」を国内外に発信するための拠点として、沖縄空手会館を建設する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	基本計画						県
	測量・土質調査						
	基本設計	実施設計					
	建設工事等		供用開始				
担当部課	文化観光スポーツ部 空手振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄空手会館建設事業	2,833,839 (1,064,908)	1,366,932 (732,120)	沖縄空手会館武道棟の工事に着手した。 展示資料の調査収集検討を行った。 管理条例の整備を行った。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
-			-	-
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果			
やや遅れ	当初、平成27年度の供用開始を目指していたが、相続手続きのされていない共有地の購入等に不測の時間を要し、本体工事の着手が平成26年度末となったことから、平成27年度は、平成28年度供用開始を目標に取り組んできた。条例の整備、関係機関との調整を進め、工事の現況から平成28年度中の供用開始が充分に見込まれる状況となっているが、当初設定した供用開始時期から遅れていることから、やや遅れとした。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄空手会館建設事業	2,599,330 (1,423,957)	平成27年度に引き続き建設工事を進める。 備品の購入及び設置、展示資料の収集及び設置を行う。 指定管理者を選定し、供用を開始する。 利用促進に向けた広報やイベントの実施する。	一括交付金 (ソフト)

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度取組改善案	反映状況
①平成27年度は、展示棟工事、武道棟工事を進め、それと平行して、空手会館の展示設計を完了させる。沖縄空手会館の管理運営、展示品調査収集業務についても推進し、利用者に良好なサービスが提供できるよう取り組んでいくとともに、平成28年度の供用開始に向け事業を円滑に推進していく。	①展示棟工事、武道棟工事を進め、常設展等に係る展示設計を完了させた。 ②管理運営については、条例を整備し、指定管理者を導入する準備を進めた。 ③展示品調査収集業務については、国内外の関係者・関係団体等のもとへ積極的に出向き、平成28年度の供用開始に向け取り組んだ。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28年度目標値	改善幅	全国の現状
県外・海外からの空手関係者来訪数	80 (H24年度)	736 (H26年度)	1000	656人	-
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
状況説明	県外・海外からの空手関係者来訪は、県主催の国際セミナー及び民間主催セミナー(県後援)の参加者数により確認した。今後は沖縄空手会館の供用開始(平成29年3月)に伴い、空手関係者(県外、海外)の来訪者動向が把握できることから、当該来訪者数も加えて実数の把握に努めたい。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p><u>○内部要因</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備を進めるにあたり、豊見城市等、関係機関との調整が必要となる。 ・供用開始に向けた指定管理者選定等の作業が必要となる。 ・活用促進のための事業展開が必要となる。 <p><u>○外部環境の変化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備事敷地の軟弱地盤対策等により、一部、工事の遅れが生じている。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> ・随時、進捗を確認し、供用開始までのスケジュール管理を密に行う必要がある。

4 取組の改善案(Action)

<ul style="list-style-type: none"> ・工程の進捗を確認していく。 ・沖縄空手会館の指定管理者を選定する。 ・平成28年度中の供用開始を目指す。

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ウ	国際交流拠点の形成に向けた基盤の整備		
施策	①国際交流拠点形成に向けた受入機能の強化			
(施策の小項目)	○交流拠点施設等の整備			
主な取組	世界水準の大規模MICE施設の整備	実施計画 記載頁	363	
対応する 主な課題	○国内外の各地域において、MICE誘致競争が年々拡大している中、特に海外市場における知名度の向上が課題となっている。また、資金的なインセンティブや沖縄ならではの体験等も含めた沖縄開催の魅力の創造とその発信も重要である。さらに、近年では、既存施設では収容が不可能な1万人規模の会議開催案件も発生してきており、施設の収容能力も課題を抱えている。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	これまで、施設規模が原因で誘致が実現していなかった中～大型の国内・海外のMICE及びその参加者について沖縄での開催誘致を促進し、観光消費額の増加や入域観光客数の平準化に寄与することを目的に大型MICE施設を整備する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
						H29年 供用予定	県
	調査・検討	基本設計	実施設計	工事			
担当部課	文化観光スポーツ部 観光整備課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
大型MICE受入環境整備事業	90,214	41,551 (47,635)	建設候補地選定に向けて、候補地の現況や課題、関係法令の手续や周辺環境への影響等、事業計画に影響を与える要因を検討。	一括交付金(ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
—			—	—
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果			
大幅遅れ	建設地の選定が当初予定より遅れ、平成27年5月22日に「中城湾港マリンタウン地区」に正式に決定し、施設の機能・規模については、平成28年1月20日に決定した。平成32年度中の大型MICE施設供用開始を目指し、取組を開始した。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
大型MICE受入環境整備事業	8,044,290	施設整備に向け、用地取得を行う。また、平成27年度末に発注する「沖縄県大型MICE施設整備運営事業アドバイザー業務」にて整備基本計画を策定する。整備基本計画により整備手法がPPP方式となった部分については、事業者を公募した後、施設整備から運営に係る一連の事業者を決定する。	一括交付金(ソフト)

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度の取組改善案	反映状況
①平成27年5月22日に建設地が「中城湾港マリントウン地区」となったことを受けて、建設地となる自治体との協働体制を構築するとともに、MICE施設整備民活導入可能性検討調査を委託し、利用者満足を得られる施設水準の実現と整備費用最適化に向け、引き続き詳細に検討していく。	2020年度供用開始の可否、交通アクセス、MICEエリア発展の可能性、県土の均衡ある発展につながるか、民間開発の可能性等を慎重に検討し、場所を決定した。 また、県内経済界、地元自治体等の意見を踏まえ、再度国内外のヒアリングを実施し、需要推計を行い、施設機能と規模を決定した。 【その他改善事項】 大型MICE施設に関する沖縄県の検討状況の報告、本県におけるMICE振興のあり方についての講演等を通して、MICE振興に関わる関係者や県民の理解と認識の共有を図った。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
・MICE開催件数 ・MICE参加者数	486件 66,195人 (23年度)	648件 78,115人 (27年度)	680件 104,100人 (28年)		2,590件 1,995,336人 (26年)
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	成果指標も伸びており、さらに、成果目標の達成に向けて取り組んでいる。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設地や施設の機能・規模等の決定の遅れにより、当初計画から遅れが生じている。 ・大型MICE施設整備に向け、利用者満足を得られる施設水準の実現と整備費用最適化を図る。 ・地元自治体等の地域と一体となり、周辺エリアでの宿泊施設、商業施設の立地を促進させる必要がある。 ・国内外のMICE需要を取り込む誘客戦略の策定、MICE関連人材の育成について早急に取り組む必要がある。 <p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MICEの開催ニーズは年々多種多様化してきており、今後も変化を続けていくものと見込まれるが、主催者や参加者の観点から、MICE施設へのアクセシビリティについては、今後も変わらず利便性が求められる。 ・震災復興事業やオリンピック需要等による建設需要の高まり、消費税増税による建設コストの増が予測される。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> ・MICE施設の機能や規模は最も重要な事項であるが、施設単体でなく、MICEエリアとして都市計画等の観点からも利便性や機能性を改善を図る観点から、交通アクセスの改善、宿泊施設・商業施設の誘致及び施設稼働率の向上の推進を図る必要がある。

4 取組の改善案(Action)

<ul style="list-style-type: none"> ・大型MICE施設の建設地が「中城湾港マリントウン地区」に決定し、施設の機能・規模も決定したことに伴い、建設地となる地元自治体との協働体制を構築するとともに、「沖縄県大型MICE施設整備運営事業アドバイザー業務」の中で策定する整備基本計画において、利用者満足を得られる施設水準の実現と整備費用最適化に向け、引き続き詳細に検討していく。 ・MICEエリア周辺に計画的に宿泊施設や商業施設が誘致できるよう、関係部局や地元自治体と連携を図りながら、「街づくりビジョン」を策定した上で、港湾計画や都市計画等の変更を目指す。 ・MICE関連人材の育成や、MICEの誘致戦略を盛り込んだ「沖縄MICE振興戦略(仮称)」を策定し、県、OCVB、運営事業者が一体となってMICE誘致に取り組む。
